

2024 年度
事業計画書

学校法人 藤天使学園

目 次

1 学園の概要	1
(1) はじめに 藤天使学園理事長	1
(2) 建学の精神	2
(3) 藤天使学園の沿革	3
2 2024 年度事業計画の概要	5
(1) 藤女子大学	6
【1】基本方針	6
【2】重点項目	6
【3】教育・研究事業計画	7
【4】施設・設備事業計画	7
【5】その他の事業計画（人事・財務等）	8
(2) 天使大学	8
【1】基本方針	8
【2】重点項目	8
(3) 藤女子中学校・高等学校	9
【1】基本方針	9
【2】重点項目	9
【3】教育・研究事業	10
【4】施設・設備事業計画	11
【5】その他の事業計画（人事・財務等）	11
(4) 幼稚園 各園	12
【1】基本方針	12
【2】重点項目	12
【3】教育・研究事業	13
【4】施設・設備計画	14
【5】その他の事業計画	15

1 学園の概要

(1) はじめに 藤天使学園理事長

学校法人藤天使学園は、ヴェンセスラウス・キノルド司教の要請によって1920年にドイツから派遣された、殉教者聖ゲオルギオのフランシスコ修道会修道女たちにより、1925年に開校した5年制の札幌藤高等女学校に始まる学園です。

第二次世界大戦終了後における教育制度改革により、藤女子中学校・藤女子高等学校となり、更に、知性豊かな教養ある職業婦人を養成するために藤女子専門学校・藤女子短期大学・藤女子大学へと続く高等教育機関を設け、日本社会の再建と発展に力を尽くしてまいりました。

一方、マリアの宣教者フランシスコ修道会は1908年に札幌に派遣されて施療活動を始め、1911年には天使病院を開設して北海道の医療に先駆的な貢献をしてきました。この修道会は《藤学園》が高等教育を始めると同時期に《天使学園》を設けて、専門学校から短期大学において看護・栄養教育を行ってきました。そして、修道会の手を離れて2000年に四年制大学へ転換し、カトリック大学として高度な専門職業人養成を行ってきました。

藤学園と天使学園というこの二つのカトリック学園は、2024年4月1日より一つの学園となり、学校法人藤天使学園となりました。カトリック精神を基盤として教育を行い、一人ひとりとはく神に愛された存在>であるというキリスト教的人間観に基づいて、幼児教育、中等教育、高等教育に全力を尽くします。

2025年に創立100周年を迎える本学園は、創立時から現在に至るまで、本学園を育ててくださった先人たちの献身的な教育活動に思いを馳せながら、私たちは未来へ向って歩んで参ります。

21世紀の世界に生きる人を育てる学園として、「愛をとおして真理へ」という建学の精神のもと、他者の幸せのために尽くす心を育て、身近な人への温かい心と、世界に向って開かれた心を兼ね備えた、知性豊かで献身的な人間を育てます。

(2) 建学の精神

「愛をとおして真理へ」(Per Caritatem Ad Veritatem)

藤天使学園はカトリック精神に基づいて、神によって与えられた一人ひとりのいのちの尊厳を大切にすることを基盤とします。

神から愛されている存在として自分を受け入れ、自分に刻まれた良心に従って正しく生き、周りの人への愛に努め、さらに世界の人々の平和と幸せのために尽くす心を育てます。私たちは、具体的で身近な愛の実践を通して、より高い真理に到達することを目指します。

創立以来の校訓 「謙遜・忠実・潔白」

教育のモットー 「一人ひとりの 咲くべき花を 咲かせよう

～うつくしく やさしく しなやかに～ 」

(3) 藤天使学園の沿革

(3) -1 藤学園の沿革

1920（大正9）年本学園の創設者であるキノルド司教は、札幌での布教活動の中で、北海道の発展のためには、とりわけ、女子教育が最も重要であると考え、本国ドイツから修道女を招きました。師とともに3人の若き修道女は、信仰心に支えられた情熱と勇気をもって、異国の地札幌に確固とした愛の教育の根を下ろし、今日の藤学園の礎を築きました。

1925（大正14）年「札幌藤高等女学校」として入学者167名で発足しましたが、その後の出生数の急増等に伴い、道内を中心に幼稚園、高等学校、大学等を相次いで開設いたしました。

1934年には、現在の小樽にマリア幼稚園（現小樽藤幼稚園）を開設し、続いて1938年に札幌市に藤幼稚園を開設し、その後も函館藤幼稚園、旭川藤幼稚園、青森藤幼稚園、苫小牧藤幼稚園、草加藤幼稚園、大麻藤幼稚園の8園を1968年までに開設しています。

また札幌藤高等女学校は、1948年に新制度施行に伴い、藤女子高等学校全日制課程普通科、同中学校として承継されています。

1947年には、専門学校令により藤女子専門学校（国語科・生活科）が認可され、続く1950年に藤女子短期大学（国文科・英文科・家政科）の開設へと引き継がれています。

1953年には、藤学園旭川高等学校（現旭川藤星高等学校）を開設、翌年藤学園旭川中学校、新懇藤学園中学校を開設し、1956年には北見藤女子高等学校（現北見藤高等学校）、同中学校を開設、1958年には新懇藤学園高等学校を開設しています。

1961年には、北海道初の女子大学として、藤女子大学文学部（英文学科・国文学科）を開設し、1992年には人間生活学部（人間生活学科・食物栄養学科）を設置、2000年には短期大学を改組し、文学部に英語文化学科、日本語・日本文学科、文化総合学科の3学科、人間生活学部人間生活学科、食物栄養学科、保育学科の3学科を設置し、2002年には大学院人間生活学研究科を開設しています。また、2020年4月には保育学科を改組し、小学校教諭養成課程を併設した、子ども教育学科を設置いたしました。

(3) -2 天使学園の沿革

天使学園のルーツは、1908（明治41）年にマリアの宣教者フランシスコ修道会（以下、「FMM」という。）がローマから7名の修道女を札幌に派遣し、開拓民のために施療所（現在の天使病院）を開設したことに始まります。

1935（昭和10）年、ローマ教皇ピオ11世が看護に携わる修道女たちに看護人材の養成に力を注ぐことを勧め、FMMは、札幌と東京で高いレベルの看護教育を始めること

を決定し、1947（昭和 22）年、天使大学の前身となる札幌天使女子厚生専門学校を、2 年後に天使女子栄養学院を設立した。1950（昭和 25）年、わが国看護教育初の短期大学になる天使厚生短期大学として認可され、1952（昭和 27）年に天使助産婦学校を開設しています。

1954 年に校名を天使女子短期大学と改称し、1965（昭和 40）年、日本初の短期大学専攻科保健師助産師合同課程を開設しています。

開設以来多くの卒業生を看護師、保健師、助産師、管理栄養士及び栄養士として国内はもとより世界に送り出し高い評価を得てきています。

このような実績を踏まえて、2000（平成 12）年に短期大学から 4 年制の学士課程天使大学に改組いたしました。

天使大学は、看護栄養学部看護学科及び栄養学科に加え、2004 年度に専門職大学院助産研究科を、2006 年度には大学院看護栄養学研究科を開設し、現在では 1 学部 2 学科 2 研究科を擁する大学へと発展しています。

2024 年 4 月 1 日に学校法人藤学園と学校法人天使学園が合併し、学校法人藤天使学園の設置する学校は次の通りです。

藤女子大学	大 学 院 文 学 部	人間生活学研究科 英語文化学科 日本語・日本文学科 文化総合学科
	人間生活学部	人間生活学科 食物栄養学科 子ども教育学科
天使大学	大 学 院 看護栄養学部	助産研究科（専門職大学院） 看護栄養学研究科 看護学科 栄養学科
藤女子高等学校（全日制課程）		
藤女子中学校		
藤幼稚園		
函館藤幼稚園		
苫小牧藤幼稚園		
草加藤幼稚園		

2 2024年度事業計画の概要

法人合併の初年度となる2024年度の理事会は、理事者15名、監事2名によって構成されます。理事会の下には、理事長をはじめ、設置する学校の長および教職員として常勤する理事で構成される常任理事会を新たに寄附行為に規定して、法人運営に係る諸課題について審議・執行を統べてまいります。

その執行を支える事務組織として局長を配した法人局を設置し、常務理事、両大学の事務局長等で構成される法人局会議によって基本的な運営指針を策定のうえ、法人運営に資する業務を担うよう計画しています。

法人としては、2025年4月1日施行の改正私立学校法に則した、寄附行為の改正案を早期に取りまとめる必要があります。既に、2023年度中から、法人局準備会議等で具体案を検討していますが、本年度前半期までには理事会・評議員会の議決の下に、文部科学省に寄附行為変更認可申請を行うよう進めてまいります。

また、法人合併契約書にも謳っている、複数大学設置法人の教学上の特例に係る基本方針を策定して、藤女子大学と天使大学の緊密な連携を早期に具現化するための大学間連携会議を組成し、実質的な大学改革に取り組んでまいります。

特に、両大学ともに2024年度の入学者数は入学定員を割り込みましたが、これが続くと私学経営の健全化を損なうこととなります。わが国の少子化が国の想定を上回る勢いで進行している中、学園としては両大学の学生確保の取組と並行して関係学科の再編、見直し等の可能性についても早急に検討に着手してまいります。

その他、学園の財政上の諸課題についても、喫緊のものとしてその改善方策の検討を進めてまいります。

学校法人藤天使学園として、あらたに踏み出す歩みを着実なものとして、学園の下の両大学、中学・高等学校、各幼稚園が一体となって、学生・生徒・園児の目線に立った教育の進展に努めてまいります。

学校法人藤天使学園の設置する各校の、2024年度の事業計画は以下の通りです。

(1) 藤女子大学

【1】基本方針

教育・研究の一層の高度化により本学のプレゼンスを高めるべく、成果が上がっている既存の取組みを着実に推進していくとともに、「藤女子大学未来共創ビジョン」を具現化するため、第Ⅲ期アクションプランに掲げている諸課題や事業の実現に向けて予算編成を実施する。

収入予算については、事業活動収入の80%超が学生生徒等納付金である実態を踏まえ、学生数の確保が財政上の喫緊課題と認識し、入学定員を充足することを目標とする。また、補助金、寄付金、受託事業収入等の外部資金獲得に努め、特に中長期的な事業計画を推進するための寄付募集については、積極的な募金活動を展開する。

支出予算については、支出総額の抑制を図るため人件費の在り方の見直し（諸手当の削減、その他人件費の引き下げの検討）を行うとともに、予算配分の抜本的な見直し（予算部門ごとのシーリングの設定及び事業のスクラップ&ビルド等）を実施する。一方、緊急性が高く、教育環境の向上に資する事業については、ヒアリングを経て「特別予算」として優先的に配分し、意欲的な取組みの推進を図ることとする。

【2】重点項目

- (1) 新たなる設置する「教学マネジメント会議」及び「管理運営戦略会議」を中心として、教育改革への対応や内部質保証を実現するための体制を強化する。
- (2) 教養科目の基盤教育科目への転換に向けて、開設科目の見直しや円滑に授業運営するための組織体制を整備する。
- (3) 大学全体のディプロマポリシー、コモン・ルーブリック、アセスメント・ポリシー等を確立し、学修成果の可視化に向けた取組みを推進する。
- (4) 「教育メディア運営センター」を中心として、将来に向けたデジタルシステムを検討し、ICTを活用した学修環境の整備を図る。
- (5) 「グローバル教育センター」を中心として、国内外の様々な問題に取り組むことのできる人材の育成を推進する。
- (6) 藤オープンリサーチフォーラムを実施し、本学教員の研究・教育成果を社会人や保護者に広く公開する。
- (7) 多様なステークホルダーに宛てた情報公開や広報活動を速やかに行えるよう学内情報を整理し、適切な情報発信及びwebコンテンツの充実を図る。
- (8) 天使大学との教育・研究・事務をはじめとする様々な分野における連携について検討・実施する。

【3】教育・研究事業計画

- (1) アカデミックアドバイザー制により、多様化する学生に対応した教育支援を行うとともに、入学前教育との連続性を踏まえた初年次教育の在り方について検討する。
- (2) 多様な学生に対応するために学修支援室を開設し、サポート体制の充実に努める。
- (3) 学生個々の学修履歴の記録・振り返り等を支援する仕組みを構築するため、本学に適した学修ポートフォリオシステムの導入に向けて検討を行う。
- (4) SA (Student Assistant) の活動をより一層拡大するため、大学の行事や企画等への参画を促し、活動の定着を図る。
- (5) 国際理解教育及び英語運用能力養成の実効性を高める英語教育プログラムの充実に図り、その成果について検証する。
- (6) GPA を利用した学習指導に係る制度の評価と見直しを実施するとともに、成績評価体制としてのアセスメント・ポリシーを構築し、学修成果の可視化を図る。
- (7) 各学部・学科の特徴を活かし、学生の参画を得ながら、全学の教育プログラムにおける教育活動を改善するためのFD活動を推進する。
- (8) LMS (Learning Management System) の積極的な活用を図り、ハイブリッドな学習環境でも導入可能なPBLやActive Learning等も含めて検討を行う。
- (9) キャリア教育が学年の進行に合わせてスムーズに進むよう、必要な科目や機会をさらに充実させる。また、インターンシップの単位認定制度の導入を検討する。
- (10) 危機管理体制を見直し、災害発生時等に迅速かつ実質的に機能できる体制、マニュアル等を早急に整備する。
- (11) 公開講座・講演会等の企画の充実や効果的な広報のあり方についての検討を通して、社会貢献事業の定着と強化に努める。
- (12) 大学教育・研究における産学官連携に向けて体制を整え、地元産業界等と連携した実践的PBLの実施などを推進・実現する仕組みづくりを行う。
- (13) IR (Institutional Research) の基盤となる本学に関する諸情報を集約・整理・分析し、課題と改善策の検討及び内部質保証における検証体制を整備する。

【4】施設・設備事業計画

- (1) 花川校舎教室エアコン新設工事 (文部科学省補助金申請)
- (2) 北16条校舎保健センター・学生相談室エアコン新設工事
- (3) 花川校舎管理棟屋上防水工事
- (4) 花川校舎 温水ボイラー (2号機) 入替工事
- (5) 花川校舎学生ロッカーパウダールーム新設工事 (プランが確定した場合のみ実施)
- (6) セミナーハウス改修工事 (今後の利用目的が確定した場合のみ実施)

【5】その他の事業計画（人事・財務等）

- (1) 第Ⅲ期アクションプランと関連付けた中長期計画及び財務計画を策定する。
- (2) 新たな予算策定方式（管理会計に資する業務目的別予算等）について検討する。
- (3) 人件費の削減方策に関する検討を進める。（諸手当の削減及びその他人件費の引き下げ、非常勤講師及び開講科目数の縮減等の検討）
- (4) 新たに創設した「スカラシップ制度」及び「キノルド司教記念・藤の実奨学金制度」を安定的に運営し、優秀な人材確保と経済的支援の両面で充実を図る。
- (5) 年次計画によるFD・SD研修会を着実に実施し、情報や知識を共有することで教職員の資質向上を目指す。
- (6) 同窓会（藤の実会）の役員との意見交換の場を定期的に設け、生涯教育やホームカミングデー等について協議を行う。
- (7) 藤女子中学・高等学校との会合を定期的で開催し、連携・交流の強化を図る。

(2) 天使大学

【1】基本方針

- (1) 天使大学は、法人合併により藤天使学園が設置する大学となったことから、これまでの天使学園中期計画に代えて新たに「天使大学中期計画」を早期に策定し、建学の精神を踏まえ天使大学の発展に向けて戦略的に取組みを推進する。
- (2) 天使大学の人事、組織、予算等の重要事項について審議し、理事会と連携できるような管理運営協議会を設置し、学長を支援し大学の適切な管理運営に努める。
- (3) 大学は、後援会及び同窓会と連携して、在学生、保護者、同窓生、本学志願者、地域住民等に対して、天使大学の現況について積極的に情報発信を行う。
- (4) 2024年度入学者数は開設以来はじめて入学定員を割り込んだことを学内全体で重く受け止め、少子化の中で次年度以降の入学者確保対策を早急にとりまとめ、実施する。
- (5) 法人合併の成果を活かすため、藤女子大学と天使大学の連携会議を早期に設置し、大学改革に連携協力して取り組む。

【2】2024年度の重点事項

(1) 教育・研究事業計画

① 教育の質保証の推進

- ・2020年度以降入学者におけるディプロマ・ポリシー（DP）の到達度分析に伴うカリキュラム評価及び新カリキュラムの構築を検討する。
- ・助産研究科助産専攻助産基礎分野のカリキュラム改正を検討する。

- ・ IR 委員会の設置と運用
 - ② 認証評価の受審
 - ・ 大学基準協会の第 4 期認証評価の受審に向けた準備をする。
 - ・ 日本看護学教育評価機構の認証評価を受審する。
 - ③ 大学院看護栄養学研究科看護学専攻博士後期課程の開設と大学院教育の充実
 - ④ 海外研修プログラムや海外大学との交流のあり方の抜本的な見直し
- (2) 主な施設・設備事業計画
- ① 働き方改革に対応した勤怠管理システムの導入
 - ② 大学共通情報システムの更改及び学内パソコンの入替え
 - ③ 3 号館屋上防水改修工事の実施
 - ④ 6 号館エレベーター改修工事の実施
- (3) その他の事業計画（人事・財務等）
- ① 前年度予算から 5%のマイナスシーリング予算編成の継続
 - ② 天使大学中期計画に連動した天使大学中期財務計画の策定
 - ③ 裁量労働制の継続とその適用外教員に対する変形労働時間制の導入

(3) 藤女子中学校・高等学校

【1】基本方針

2016 年 1 月に策定された「藤学園が設置する中学校・高等学校における新たな行動計画『ニューアクションプラン』」の実現をはかるために、4 点の重点項目（1）カトリック女子校としてのアイデンティティの深化（2）責任ある学習指導と確かな進路実現を図る学習プログラムの改革（3）入学者数の安定的確保を図るための広報・生徒募集の活動の強化（4）長期的・安定的学校運営を図るための財務状況の健全化を設定し、2019 年度まで教育・研究事業計画を実行してきた。2025 年に藤学園が創立 100 周年を迎えるにあたって、2020 年度から「藤女子中学校・高等学校の未来共創ビジョン」において以下の 5 点の重点項目を設定している。

【2】重点項目

- (1) 未来を切り拓く藤～学びから想像力を養います
変化の激しい時代にも対応できる学びの質を追求し、生徒が豊かな教養と生涯学び続ける姿勢を身につけるように導きます。
- (2) 地域とつながる藤～社会貢献を推進します
生徒が良心に従って誠実に行動し、家庭や社会の中で他者のために貢献できるよう導きます。
- (3) 世界ではばたく藤～国際理解・交流を深めます

生徒が多様な文化への理解を深め、国際人としてのコミュニケーション能力を高められるよう導きます。

(4) 個性の花咲く藤～チャレンジを応援します

一人ひとりの生徒を神から愛されているかけがえのない存在として尊重し、自己肯定感を高め、視野を広げる学びの場に生徒が挑戦できるよう導きます。

(5) 信頼される藤～生徒を守る環境を整えます

安定的な学校運営を行い、災害等あらゆる危機から生徒を守り、安心して学ぶことができる環境を整えます。

【3】教育・研究事業

(1) ①カトリック校の教職員として果たすべき各々の使命や役割を再確認し、各自の年度内目標を達成する。

②カトリック学校の教職員としてその理念を具体的に教育活動に生かすために、また対話による女子教育を深めるために研修を行う。

③ICT 等を活用した個別最適化の授業及び学習到達度をベースにした評価法の研究し、その成果を共有する。

④生徒が自学自習の習慣を身につけ、家庭学習時間を確保するためのサポートを特に中学各学年で徹底して行う。

⑤中学学力推移調査、高校模擬試験の結果から学年・教科ごとの課題を職員会議等で共有し、各学年の教科責任者が中心となって各層の生徒を伸ばす効果的な実践を行う。

⑥思考力・判断力・表現力を深めるために生徒がより主体的に取り組む行事の在り方を検討し、その成果を検証する。

(2) ⑦校外でのマナー、校内での挨拶、日常のマナー、ネットリテラシー教育を定期的・継続的に実施する。

⑧伝統的に行われている宗教行事や瞑目、清掃指導の意義や実施方法を再確認し、全教職員が一体となって取り組む。

⑨LHR や行事を通して身近な環境問題や社会福祉活動等について学び、生徒のボランティア活動を促進する。

⑩学校祭、オーケストラ部定期演奏会等を広報し、地域住民との交流を行う。

⑪中学入試において成績優秀な生徒にクサベラ・レーメ奨学金等を給付し、就学支援を行う。

(3) ⑫外部プログラムなどによって、SDG s 等について学び、その解決のための主体的・具体的な行動が可能になる機会を設ける。

⑬アイルランド姉妹校交流、英国、オーストラリア等の海外研修、上智大学のタイ・スタディツアーなど多様な国際交流プログラムを実施する。

- ⑭英語力の向上を目指し、LCのレベル別選択授業や英検講座等の内容を充実させる。
- (4) ⑮行事におけるクラス・学年の交流、他学年との交流を通して、生徒が物事の良い面を見つめ、他者に対する思いやりを持てるように導く。
- ⑯「未来の私プログラム」を各学年で実施するほか、生徒のロールモデルとなるような人物の講演会や生徒の視野を広げる学びの場の提供を行う。
- ⑰将来の学びにつながる中高大連携プログラムを充実させ、生徒のチャレンジを促す。
- (5) ⑱保護者との連携を強化するため、教務システム BLEND の更なる活用を推進する。
- ⑲感染症発生・災害時に対応できるよう備蓄品を確保し、教職員で定期的な訓練を実施する。
- ⑳保護者と教職員の協力によって、新体制のPTA（研修部・手芸部・企画部）を運営していく。
- ㉑生徒数に応じた学級数と人件費などの適正化を行い、安定した学校経営を行う。
- ㉒中学入試の在り方とともに今年度からの実施する高校入試に向けて、十分な準備と対策を行う。

【4】施設・設備事業計画

- (1) 施設及び設備の適切な維持管理、施設の長寿命化
- (2) 体育館改修工事の適正管理
- ・体育館改修工事工程表に基づく工事施工状況の適正管理（2024年度末竣工）
- (3) その他
- ・学習環境に配慮した施設・設備の整備の検討（教室等への冷房施設の導入、ラーニングコモンズ整備等
 - ・藤の木会館の有効活用の検討並びに老朽化設備等の更新（配管改修及び外壁補修など）

【5】その他の事業計画（人事・財務等）

- (1) 効率的で効果的な教職員配置
- ①2023年度末定年退職者に伴う専任教員体制の検討
 - ②2024年度教育課程に基づき常勤講師、時間講師の活用を含めた教職員の適正配置
 - ③定年延長制度の取扱いに向けた検討
- (2) 労働契約法、パ有法改正を踏まえた同一労働同一賃金問題の課題解消
- (3) 事務の効率化
- ①事務ポータルサイトの活用
 - ②教職員個人メアドを活用した校内情報の伝達

(4) 法人との連携による創立 100 周年記念事業に向けた事業の検討

(4) 幼稚園 各園

【1】基本方針

キリスト教の人間観に基づき、一人ひとりの子供をかけがえのない存在として大切に育み、健全な心身の発達と人格形成の基礎を培う教育

【2】重点項目

(4) -1 藤幼稚園

- ・藤学園の建学精神に基づく教育内容をさらに深め、本園の特色あるモンテッソーリ教育の質の向上に努める。

(4) -2 認定こども園 函館藤幼稚園

- ・国内研修・研修会に参加するとともに、教職員の質の向上を図る。

(4) -3 苫小牧藤幼稚園

- ・藤学園の幼稚園としての建学の精神を大切に子ども達一人ひとりが、神様の愛を知り、人として大切な心の教育が幼児期にしっかりと築いていけるように、また、保育者も一人ひとり子ども達を大切にしながら、子ども自身の良さを認めながら、自分で考え行動していけるような子ども主体の保育に努めていく。

(4) -4 草加藤幼稚園

- ・子どもたち一人ひとりへの細やかな配慮を怠らないこと。子どもたちの心とからだの安全確保を何よりも優先させること。
- ・団地跡地の大規模再開発に伴い、園児及び保護者の安全の確保（交通安全）に最新の注意と配慮を怠らない。（現在、北側に戸建て住宅が建設中で、この5月に第一回目の売り出しがおこなわれるとのこと。）
- ・近年、埼玉県において重点がおかれている特別支援教育に積極的に参画し、発達支援サポーター育成研修を重ね、全教職員が心を合わせて障害のある園児に対して細やかな忍耐深いケアを行うこと。
- ・本園の卒園児童への配慮：月曜学校の実施がコロナ対策で休止中であるが、できれば再開したい。（幼保小連携推進に積極的に協力する。）

- ・少ない人材で最大効果を具現するために、相互の仕事の大切さを認め合い、それぞれの力を有効に活用する一致団結の精神を持つことを求める。

【3】教育・研究事業

(4) -1 藤幼稚園

- ・異年齢混合の縦割り保育形態の良さを発信していく。
- ・園内研修を深め、継続して園児たちに還元していきたい。
- ・本園の特色である宗教教育、モンテッソーリ教育を中心とした質の高い幼児教育の方向性をいかに維持していくか、園内研修を深めたい。
- ・地域子育ての相談役として、未就園児クラスの親子に幼稚園にきてもらい、藤幼稚園の魅力を知ってもらおう。そして、入園につなげていきたい。
- ・夏冬春休みの預かり保育実施、又、来年度以降の満3歳児獲得のための計画も考えていく。

(4) -2 認定こども園函館藤幼稚園

- ・園内・園外の研修の充実を図る。
- ・2歳児保育・教育の充実を図るとともに、入園に繋げていく。
- ・新しい制度の導入に向けて検討して行く（こども誰でも通園制度）

(4) -3 苫小牧藤幼稚園

- ・一人ひとりの職員のスキルアップを図るため、それぞれ自己研鑽に努め、研修を通して学びの場を増やししながら、お互いを高め合っていけるようにまた、”大切にしていきたい一人ひとりの子ども達を見る丁寧な保育”は今年度も再度見つめ直し、保護者への対応、信頼関係を築き、信頼を持ちながら大切にしていく。
- ・今後も環境設定を見つめ直し、子ども達の安全、遊びの充実を図り、一人ひとりの子ども達が自分で考えて楽しめる保育、またその子自身の成長段階に合わせ課題を持ちながら、遊びを通し、友だちとの関わりを通して成長していけるような保育を目指していく。
- ・障がい児支援を必要とする園児については細やかなケアを日々研究し、園生活を通して子ども達一人ひとりの成長を全職員が共通理解し、指導・配慮していけるように心掛ける。

(4) -4 草加藤幼稚園

- ・モンテッソーリ教育法を取り入れている本園は、この教育法を更に具現化するために、人的・物的環境の一層の整備に配慮する。

- ・希望者に対するモンテッソーリ教員養成コースへの参加承認及びこれに伴う配慮をする。
- ・埼玉県が目指している子育ての目安「3つのめばえ」について研究し、モンテッソーリ教育法との整合性を確認し、本園の幼児教育のあるべき姿について認識を深める。
「三つのめばえ」：生活、他者との関係、興味・関心
- ・カトリック幼稚園として、可能な限り、日本カトリック幼稚園連盟主催の研修会に参加（参加が困難な場合には資料研修）することによって、カトリック幼稚園としての自覚・意識を新たにするように努める。
- ・草加市幼児教育充実事業（子どもたちの豊かな心を育み、幼児期の教育から小学校教育への円滑な接続を図るため、幼児の発達に必要な体験機会を充実させる）を推進する。同時に、家庭教育支援活動を行う。
- ・地場産業である草加せんべいの製造方法を体験的に知る機会を持つ。（草加せんべいの手焼き体験学習）
- ・年長児対象「お芋ほり」体験。（自然豊かな歴史的遺跡である赤山城址に近接する田中園で自然の実りの収穫を体験する）
- ・年長児対象で松尾芭蕉ゆかりの松原松並木散策を通じて草加の歴史を体感する。
- ・年長児対象のお別れ遠足を実施する。（上野科学技術博物館）東武スカイラインの利用による、交通安全対策と教育の実践。
- ・モンテッソーリ教育法の中心的理念である日常、言語、感覚、算数、文化などの集大成として「お料理会」を実施し、買い物、料理、配膳などを体験する。年中、年少、満三歳児も参加し年中、年少、満三歳児も参加できるように工夫し、年長児の姿から学ぶように準備する。
- ・各季節の行事（子どもの日、七夕、七五三、クリスマス、ひな祭りなど）を通じて、日本の文化の意味を感じ、素晴らしさを体験する。

【4】施設・設備計画

(4) -1 藤幼稚園

- ・2階ホールのエアコン設置
- ・教育用パソコン購入
- ・職員室内整備
- ・防災用品整備（水・食料・簡易トイレ・毛布等）

(4) -3 函館藤幼稚園

- ・デスクトップパソコン（教諭用）
- ・ノートパソコン（教諭用）

- ・ストーブ

(4) -3 苫小牧藤幼稚園

- ・行事等で保育者が来園する時の駐車場を今後も確保していけるように進めていきたい。
- ・建物の劣化による見直し、今後を見通しての計画性を持ったリノベーション。
- ・建物の安全を考え計画的にメンテナンス、補修・入れ替え。安全な保育環境の設定・設備。

(4) -4 草加藤幼稚園

- ・老朽化の域に達している園舎であるが、この温もりのあるレトロの雰囲気を持続させるよう点検を重ね、必要な小規模修繕を行う。
- ・周辺の環境が新しく変わる中、それとの釣り合いを考え、施設の安全強化（腐食し始めているフェンスの塗装）、屋上の防水対策等を徐々に進める。

【5】その他の事業計画

(4) -1 藤幼稚園

- ・昨年より先生方の「働き方改革」のためのプロジェクトチームをつくり、今年からそれに基づき「働き方改革」を実施する。

(4) -2 認定こども園 函館藤幼稚園

- ・実習生の受入とともに、人材確保につなげていく。
- ・年長1クラス 年中1クラス 年少1クラス 満3 1クラス 保育部 1.2歳児
- ・一時預り事業一般型（2歳児、1歳児）・幼稚園型

(4) -3 苫小牧藤幼稚園

- ・時間を上手く活用し、働きやすい職場作りに努め、仕事の負担の軽減により、保育の活力につなげられるように心掛けていく。
- ・職員同士が上手く打ち合わせの時間を作りながら、お互いを切磋琢磨し合いながら協力体制を大切に教育の資質向上に努める。
- ・園児確保のため、2歳児クラス・親子教室・地域開放の充実を図り、また保護者が園を知ってもらえるための企画を考えたり、イベント等の参加など、新しいことにチャレンジしていく。

(4) -4 草加藤幼稚園

- ・園児の増加に向けて未就園児クラスの活動など、可能な努力を行うと同時に、節約に心がけながら持続可能な社会の実現に寄与する。
- ・幼稚園運営のために、県を始め地方自治体からの補助を受け、本園の幼児教育の質を保持し、協働者（教職員など）への可能な限りの配慮（人間関係、経済的向上など）をする。
- ・園の発信力を高めるために、ホームページの改善を進めたい。Instagramの充実を図りながら、他の発信方法の充実も図っていく。

以上